

(4) 母と子の健康

主な取組み・事業は、P108～109 参照

[現状と課題]

保健師等による妊娠・出産・育児に関する相談や情報提供、保健指導を行い、母と子の健康管理を促すとともに、支援が必要な妊産婦へは保健師等が母子の状況に応じた支援を行っています。しかしながら、妊産婦と電話がつながらない等により、保健指導ができず、妊娠・出産・育児に対する悩みや不安を十分に把握できない状況があります。

産後については、産婦健康診査や産後ケア事業等により、支援が必要な母子に対して、心身のケアや育児支援を行い、支援の充実を図っています。

乳幼児については、成長・発育状況を確認することで様々な問題を発見し、治療につなげるため、乳幼児健康診査を実施しており、受診率は高い水準となっています。未受診者に対しては訪問や電話などにより再勧奨をしていますが、就労している保護者も多く、多忙等の理由により受診に至らない場合があります。

さらに、歯の健康については、妊産婦や乳幼児の歯科健康診査を実施しており、その中でむし歯のない3歳児の割合については改善傾向にあります。

《健康相談》

年度		H26	H27	H28	H29	H30
妊婦	面接	1,410 件	1,649 件	1,645 件	1,541 件	1,529 件
	電話	273 件	75 件	985 件	1,131 件	1,553 件
産婦	面接	96 件	65 件	59 件	104 件	186 件
	電話	1,066 件	815 件	520 件	830 件	1,402 件
乳児	面接	347 件	378 件	309 件	514 件	357 件
	電話	2,205 件	3,218 件	2,521 件	2,993 件	3,214 件

※平成 28 年度から助産師による相談支援を含む。

《産後ケア事業》

年度	H26	H27	H28	H29	H30
ショートステイ			6 件	17 件	27 件
デイケア			37 件	121 件	135 件

《訪問指導実績》

年度	H26	H27	H28	H29	H30
妊産婦訪問延件数	947 件	856 件	1,022 件	900 件	1,236 件
乳幼児訪問延件数	1,386 件	1,319 件	1,411 件	1,367 件	1,752 件

《乳幼児健康診査の受診率》

年度	H26	H27	H28	H29	H30
4 か月児	95.8%	96.3%	96.4%	97.8%	98.4%
7 か月児	92.2%	94.3%	92.9%	91.9%	93.5%
10 か月児	88.6%	89.9%	90.1%	91.8%	89.8%
1 歳 6 か月児	95.6%	97.3%	96.9%	97.4%	94.5%
3 歳児	93.9%	95.5%	94.1%	97.5%	98.4%

《健康教室実施状況》

年度		H26	H27	H28	H29	H30
両 親 学 級	開催回数	12 回	12 回	12 回	13 回	18 回
	延参加者数	496 人	426 人	493 人	442 人	465 人
育 児 学 級 等	開催回数	223 回	273 回	289 回	271 回	292 回
	延参加者数	6,633 人	7,106 人	7,189 人	7,021 人	7,640 人

《3 歳児のむし歯の状況》

年度	H26	H27	H28	H29	H30
むし歯がある3歳児の割合	24.6%	25.7%	21.8%	22.6%	18.5%
むし歯がある3歳児の平均むし歯本数	3.5 本	3.5 本	3.2 本	3.4 本	3.6 本

(5) 子育ての不安感・負担感の軽減と仲間づくり

主な取組み・事業は、P101～105 参照

[現状と課題]

長崎市では、子育ての不安感・負担感の軽減のため、子どもや子育て家庭からの様々な相談に応じる、「こども総合相談窓口」を設置し、専門の相談員がケースに応じた情報提供や助言等を行っています。また、子どもと子育て家庭に関する情報を集約した子育て応援情報サイト「イーカオ」を、モバイル対応にするとともに、より閲覧しやすくなるようにレイアウト等を変更するなどリニューアルを行い、子育て家庭がより身近で利用しやすい情報発信に取り組んでいます。

さらに、仲間づくりの推進や家庭の子育て力向上の支援として、子育て中の親子が気軽に集まり、遊びや相談、情報交換などを行うことができる場として子育て支援センターの設置やお遊び教室、育児学級などの開催、親育ちを支援する講座やワークショップ「ファミリー・プログラム」を実施しています。

今後も、少子化、核家族化、地域のつながりの希薄化が進行していく中で、子育ての不安感・負担感の軽減や仲間づくりを推進するための支援をさらに充実させていく必要があるとともに、これらの取組みを総合的に支援するための拠点の整備を検討していきます。

また、長崎市では、平成 28 年度から、おむつ替スペース又は授乳室を無料で提供できる施設を「赤ちゃんの駅」として認定する取組みを行っていますが、地域や商店街、職場など、どこにいても子育てを応援してもらえるような「場所の切れ目のない支援」を充実させ、まち全体で子育て家庭を応援する仕組みを検討していきます。

《長崎市のこども総合相談件数》

年度	H26	H27	H28	H29	H30
新規受理件数	1,364 件	1,343 件	1,292 件	1,339 件	1,534 件
実対応件数	1,714 件	1,680 件	1,516 件	1,614 件	1,853 件
延対応件数	14,358 件	16,863 件	18,826 件	19,590 件	22,570 件

※新規受理件数：当該年度中に新たに受理した相談件数

※実対応件数：当該年度中に対応した相談の実件数

※延対応件数：当該年度中、各々のケースに対し、訪問・電話・面接等何らかの対応を行った件数

《「イーカオ」へのアクセス件数》

年度	H26	H27	H28	H29	H30
アクセス件数	53,736 件	124,213 件	180,356 件	192,368 件	224,732 件

《親育ち学びあい講座への参加数》

年度	はじめてママ		のびのび子育て講座	
	実施講座数	参加組数	実施講座数	参加人数
H26	18 講座	178 組	5 講座	75 人
H27	17 講座	153 組	6 講座	99 人
H28	17 講座	159 組	7 講座	102 人
H29	8 講座	91 組	8 講座	106 人
H30	6 講座	84 組	8 講座	96 人

《「赤ちゃんの駅」認定施設数》

年度	H28	H29	H30
認定施設数	36 箇所	41 箇所	44 箇所

【ニーズ調査結果】

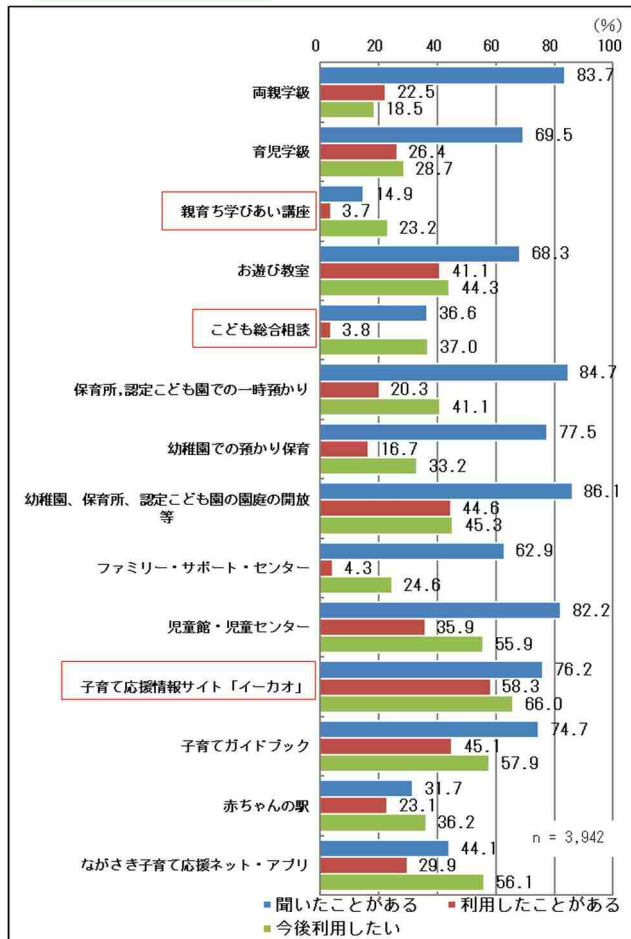
- 子育てによる心身の疲れを感じる保護者は半数を超えており、特に就学前児童の保護者はその割合が高くなっています。
- こども総合相談を「利用したことがある」という割合は、就学前児童の保護者も、小学生の保護者も少ないですが、「今後利用したい」という割合はどちらも30%を超えています。
- イーカオの認知状況、利用状況、利用希望ともに就学前児童の保護者が小学生の保護者を上回っており、就学前の子どもをもつ家庭が子どもと子育てに関する様々な情報を必要としていることがうかがえます。
- 親育ち学びあい講座の利用状況は3.7%と低い割合となっていますが、今後利用したいと思っている割合は23.2%となっています。

《子育てをする上で感じること》

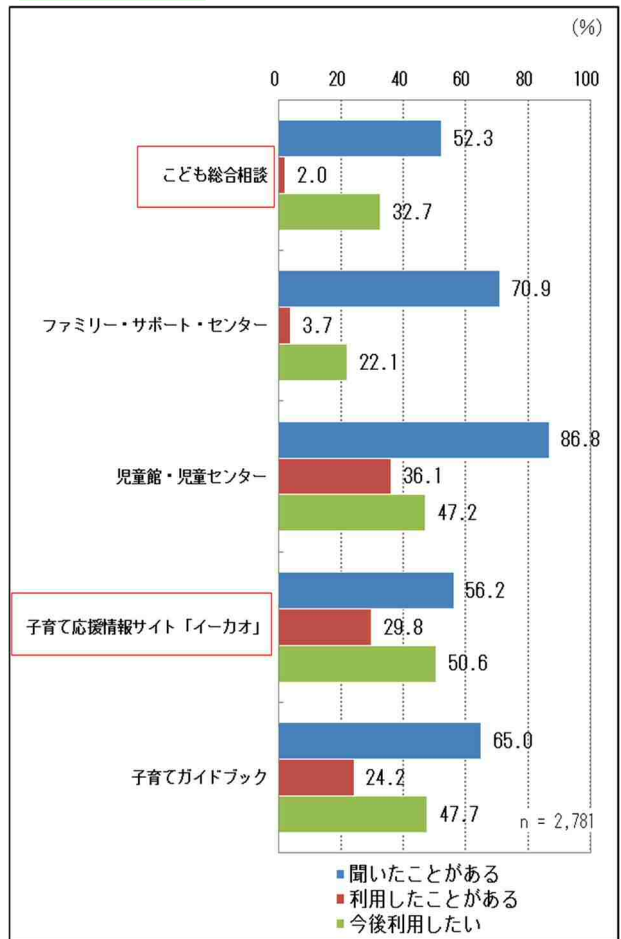
設問	対象	H26年度	H30年度	増減
『子育てによる心身の疲れを感じる』割合	就学前調査	63.8%	66.4%	2.6%
	小学生調査	47.9%	53.6%	5.7%
『子育ては親の責任と言われ、不安や負担を感じる』割合	就学前調査	46.8%	48.8%	2.0%
	小学生調査	43.9%	49.0%	5.1%
『時間が取れず、自由がない』と感じる割合	就学前調査	72.3%	78.4%	6.1%
	小学生調査	55.4%	62.0%	6.6%
『配偶者や家族の協力が得られない』と感じる割合	就学前調査	32.5%	34.3%	1.8%
	小学生調査	35.7%	34.2%	▲ 1.5%
『子どものしつけや接し方がわからない』と感じる割合	就学前調査	44.9%	45.2%	0.3%
	小学生調査	38.7%	43.2%	4.5%
『子どもが思うようにならないときに、つい手が出てしま いそうになる』と感じる割合	就学前調査	57.2%	57.4%	0.2%
	小学生調査	51.6%	52.5%	0.9%
『仕事や地域活動と子育ての両立が難しい』と感じる割合	就学前調査	47.9%	49.6%	1.7%
	小学生調査	50.4%	50.5%	0.1%

《長崎市の子育て支援サービスの利用状況等》

《就学前児童調査》



《小学生調査》



(6) 児童虐待等の防止

主な取組み・事業は、P110～111 参照

[現状と課題]

長崎市における平成 30 年度の児童虐待に関する実対応件数は 184 件で、10 年前の平成 20 年度と比較すると、約 1.7 倍、延対応件数は 4,908 件で約 4.1 倍となっています。虐待の内訳では心理的虐待が最も多い状況となっています。

また、延対応件数が増加しているのは、相談内容が複雑かつ複合的であり、対応に時間及び回数を要する困難ケースが増えていることがうかがえます。

今後も、虐待やいじめ等から子どもを守るため、長崎市親子支援ネットワーク地域協議会(児童福祉法に基づく要保護児童対策地域協議会)において、児童相談所をはじめ、関係機関等との連携を図り、子どもと親が安心して暮らすことができる環境づくりと丁寧な支援を行っていく一方で、児童虐待の早期発見、早期対応のために、関係機関との連携の強化や職員の専門性の向上などの体制の充実に取り組んでいく必要があります。

《長崎市の児童虐待相談件数》

年度	H26	H27	H28	H29	H30
新規受理件数	78 件	90 件	81 件	102 件	104 件
実対応件数	165 件	152 件	139 件	168 件	184 件
延対応件数	3,996 件	4,149 件	3,696 件	3,892 件	4,908 件

※新規受理件数：当該年度中に新たに受理した相談件数

※実対応件数：当該年度中に対応した相談の実件数

※延対応件数：当該年度中、各々のケースに対し、訪問・電話・面接等何らかの対応を行った件数

《長崎市親子支援ネットワーク地域協議会の開催回数》

年度	H26	H27	H28	H29	H30
代表者会議	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回
実務者会議	13 回	11 回	10 回	8 回	10 回
個別ケース会議	253 回	246 回	254 回	292 回	426 回

※代表者会議：関係機関等の代表者で構成され、要保護児童の支援に関するシステム全体について協議を行う

※実務者会議：実務担当者で構成され、要保護児童の支援に関する実務について協議を行う

※個別ケース会議：個別ケースの情報の把握・共有、問題の確認、具体的な支援方法及び役割分担を行う

(7) 障害児への支援

主な取組み・事業は、P115～116 参照

[現状と課題]

長崎市では、障害児保育を実施している幼稚園や保育所などが増えており、障害福祉センターによる幼稚園、保育所への巡回相談を実施しています。また、全市立小中学校においては、特別支援教育を推進しています。

障害のある子どもへの支援は徐々に広がりつつありますが、子どもの発育・発達に悩みを抱える保護者が増えている状況にあり、今後も、不安を抱く保護者への支援や、障害のある子どもへの理解や教育・保育施設等における受入体制の充実が必要です。

《障害児保育の実績》

年度	H27		H28		H29		H30	
	箇所	児童数	箇所	児童数	箇所	児童数	箇所	児童数
保育所	64 箇所	152 人	76 箇所	204 人	72 箇所	179 人	80 箇所	209 人
放課後児童クラブ	65 クラブ	134 人	65 クラブ	145 人	68 クラブ	163 人	67 クラブ	177 人

《幼稚園、保育所への巡回相談の実績》

年度	H27	H28	H29	H30
巡回箇所	129 箇所	148 箇所	195 箇所	164 箇所

(8) 子どもの健全育成

主な取組み・事業は、P106～107 参照

[現状と課題]

少子化や地域との関わりの減少及び子どもが犯罪や事故等の危険にさらされる事例が全国的にも多くなっているなどの影響により、子ども同士の交流、体験する機会や安心して過ごせる場所が減少しています。

長崎市では、保護者の就労の有無に関わらず、全ての小学生が、放課後や週末に学校や公民館などで学習・スポーツ・文化芸術活動などを体験できる放課後子ども教室を地域の方々の協力を得て実施しています。

また、子どもの安全確保についても、「子ども安全対策会議」を設置し、不審者情報等（こども安全注意報）を小中学校、幼稚園、保育所、放課後児童クラブ等へ提供し、子どもの事件、事故の被害拡大の防止に努めています。また、全ての市立小学校区において「小学校区子どもを守るネットワーク」を設置し、地域の方々の力を結集してパトロールや情報交換会など子どもたちを守る取組みを行っています。

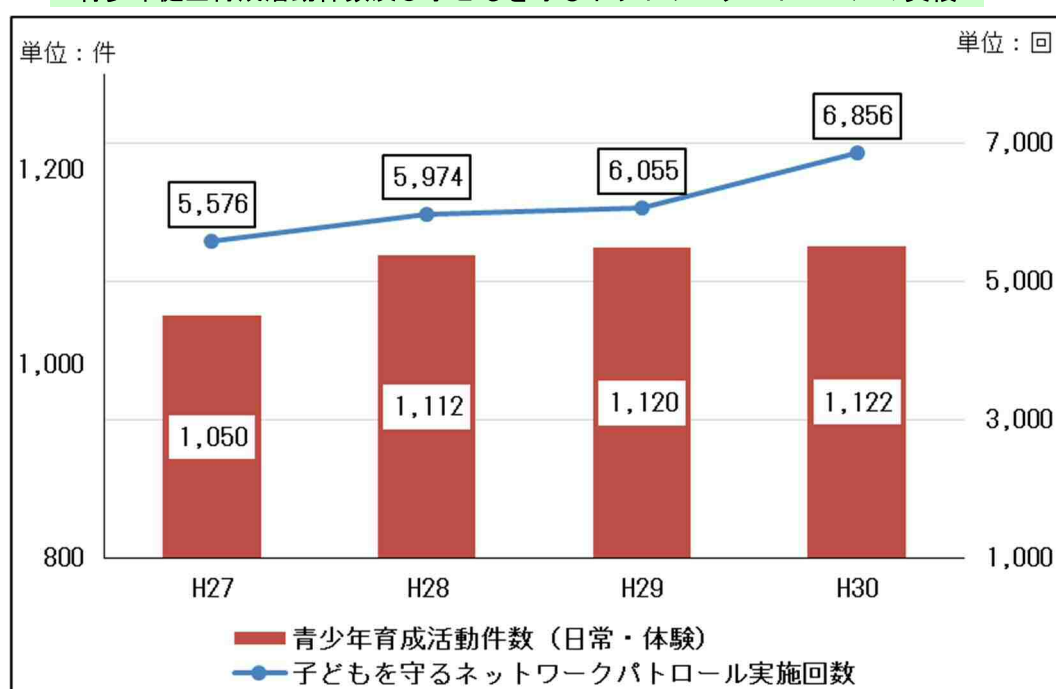
今後も、子どもの安全を守るとともに、子どもが体験・交流する機会の充実が必要です。また、地域での活動の担い手の育成も必要です。

さらに、子どもたちが、豊かな自然環境の中で思いっきり遊び、成長できるような場所の整備に取り組んでいきます。

《放課後子ども教室の実施状況》

年度	H26	H27	H28	H29	H30
実施小学校区数	12	16	21	29	38

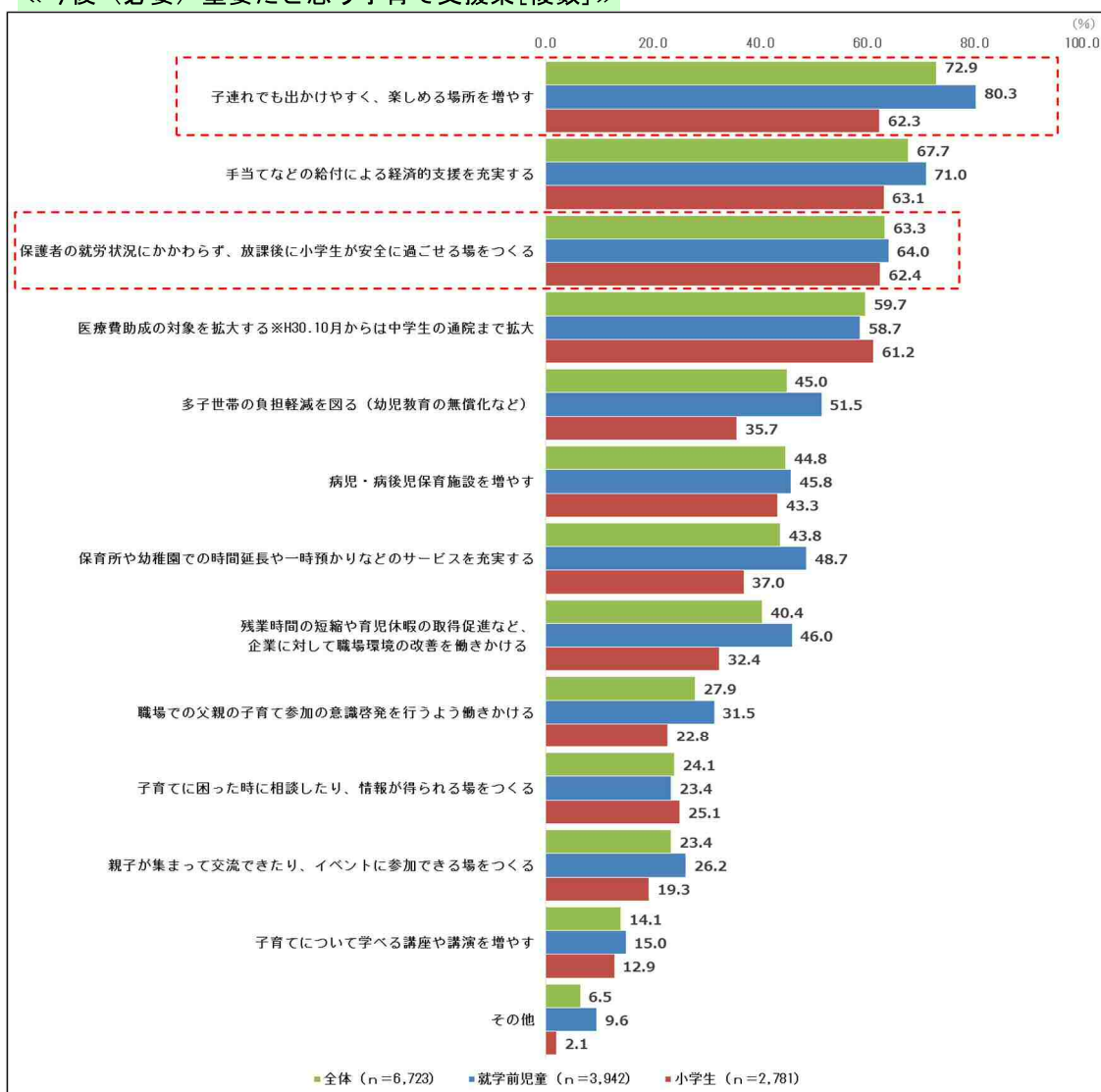
《青少年健全育成活動件数及び子どもを守るネットワークパトロールの実績》



【ニーズ調査結果】

- 「子連れでも出かけやすく、楽しめる場所を増やす」については、全体の割合として7割を超えており、特に就学前児童の保護者のニーズは、80%を超える割合となっています。また、「保護者の就労状況にかかわらず、放課後に小学生が安全に過ごせる場所をつくる」についても、60%以上の割合を占めています。
- 「子どもが犯罪や交通事故に遭わないか不安」と感じている保護者の割合は、依然として高い割合を占めています。
- 就学前児童の保護者が、子どもが小学校に入学後に放課後過ごさせたい場所として、放課後子ども教室は10%程度になっています。
- 小学生の放課後子ども教室の利用状況は2.3%ですが、利用希望は8.3%となっています。

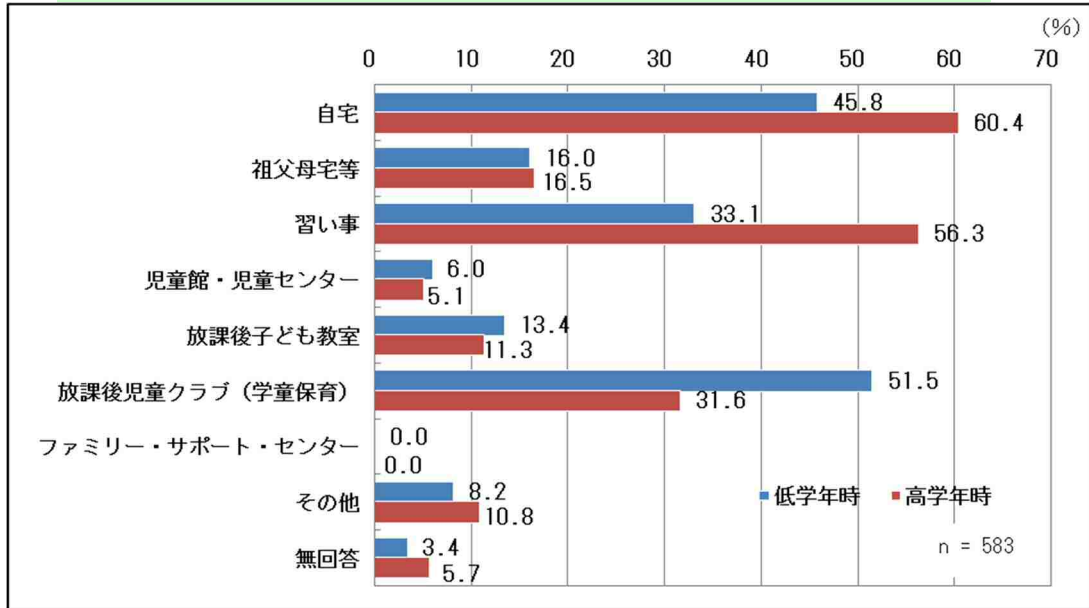
《今後（必要）重要だと思う子育て支援策[複数]》



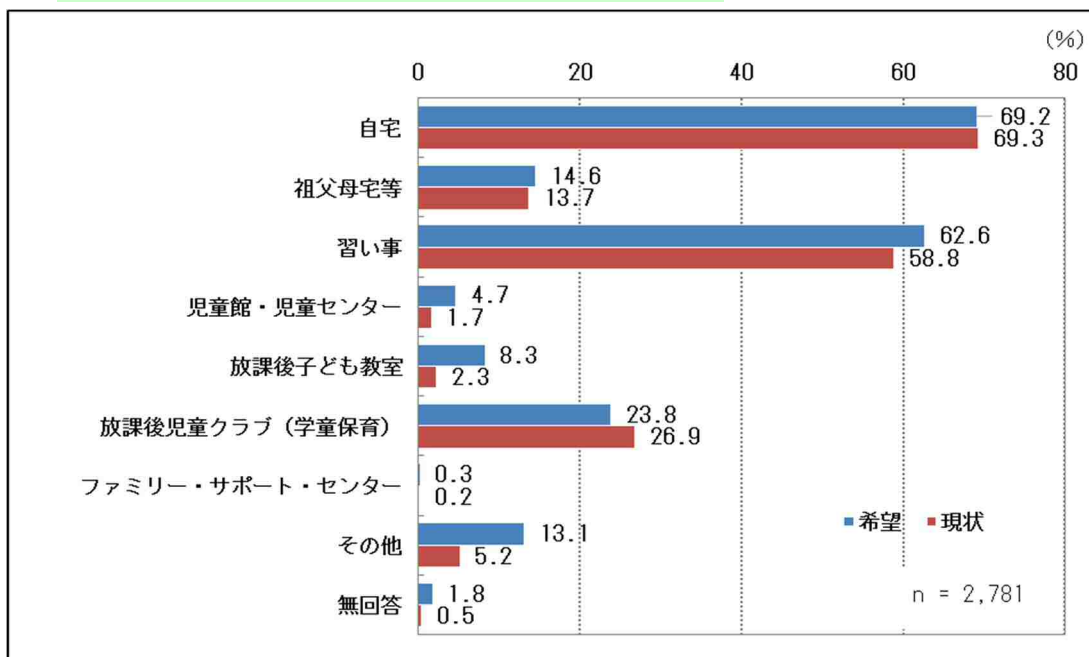
《子育てをする上で感じること》

『子どもが犯罪や交通事故に遭わないか不安』を感じる割合	H26年度	H30年度	増減
就学前調査	89.8%	86.7%	▲ 3.1%
小学生調査	93.2%	91.5%	▲ 1.7%

《低学年と高学年における放課後の居場所の希望（就学前児童調査）[複数]》



《放課後の居場所の現状と希望（小学生調査）[複数]》



(9) 子育てと仕事の両立

主な取り組み・事業は、P117 参照

[現状と課題]

共働き家庭の増加やライフスタイルの多様化が進む中、子どもと向き合う時間を確保するためには、子育てと仕事の両立への支援がますます重要となっています。

長崎市では、子育て中の保護者が安心して働けるよう保育所、放課後児童クラブ等の受け入れ環境の整備や運営への助成を行うなど、必要な量の確保に取り組んできました。

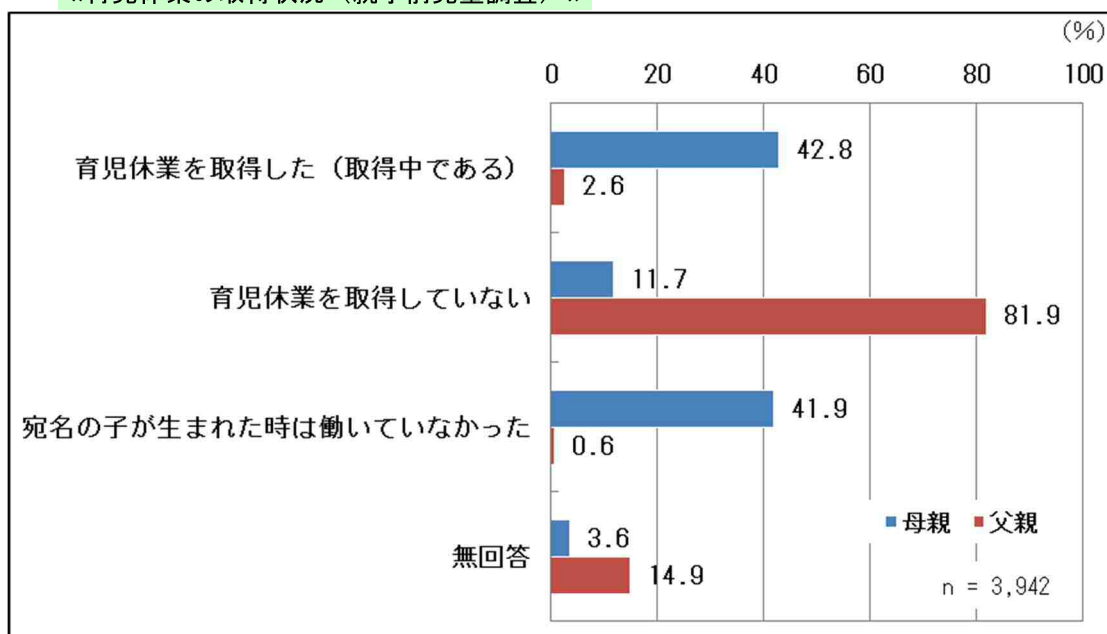
また、ワーク・ライフ・バランスを推進するために、ホームページなどで企業や市民へ周知・啓発を行っています。また、ワーク・ライフ・バランスに関する講座を開催しています。

今後も、保育施設等の整備やワーク・ライフ・バランスの推進に取り組むとともに、父親が子育てに参加しやすい環境づくりの推進にも取り組み、子育てと仕事が両立できる環境の充実を図っていくことが必要です。

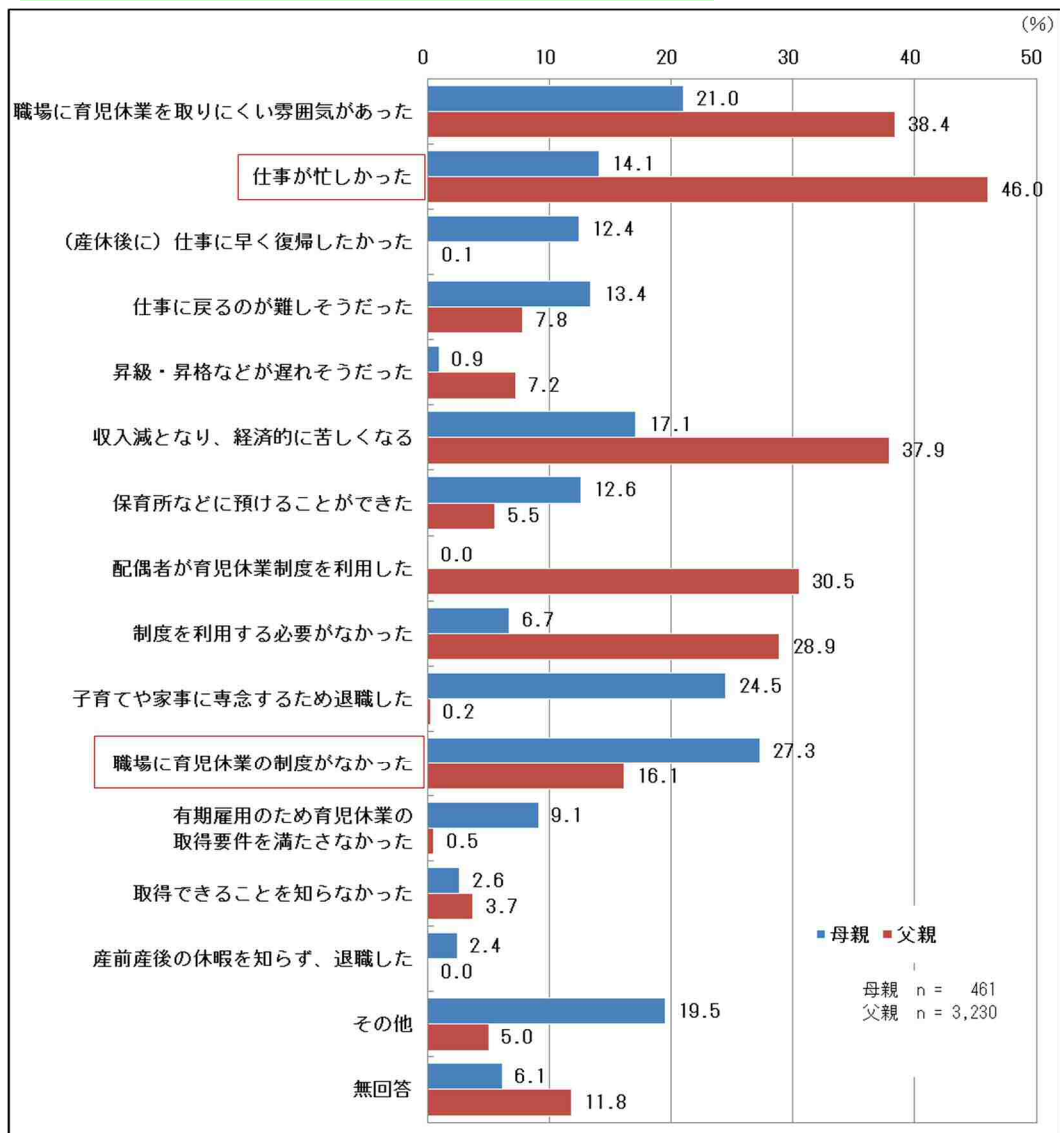
【ニーズ調査結果】

- (調査対象の子どもが生まれた時に) 育児休業を取得した(取得中である)就学前児童の保護者の割合は母親 42.8%、父親 2.6%です。
- 育児休業を取得しない理由としては、母親は「職場に育児休業の制度がなかった」が 27.3%で1位となっており、父親は「仕事が忙しかった」が 46.0%で1位となっています。
- 平日の1日あたりの育児時間は、母親は「5時間以上」が 73.9%で1位となっており、父親は「2~3 時間未満」が 19.2%で1位となっています。

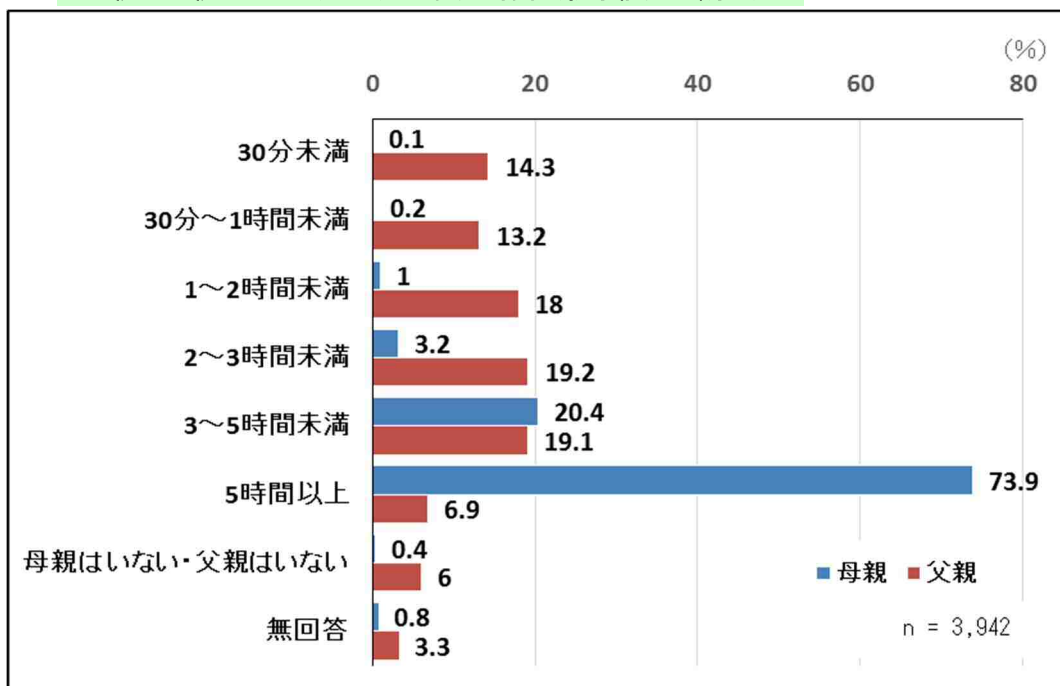
《育児休業の取得状況(就学前児童調査)》



《育児休業を取得しない理由（就学前児童調査）[複数]》



《母親・父親の1日（平日）の育児時間（就学前児童調査）》



(10) 経済的支援

主な取組み・事業は、P105、113 参照

[現状と課題]

ニーズ調査によると、今後重要だと思う子育て支援策について、就学前児童の保護者・小学生の保護者どちらも「手当などの給付による経済的支援を充実する」が、6割を超える割合を占めており、経済的支援に対するニーズが高いことがうかがえます。

長崎市では、子ども福祉医療費助成の対象を中学校卒業まで拡大するなど一定の支援に取り組んできました。

また、国においても幼児教育・保育の無償化が実施されたところです。

今後も、既存の経済的支援を引き続き実施していくとともに、全国一律で支援すべき制度については、国や県に対して要望していきます。

《今後（必要）重要だと思う子育て支援策[複数]》

